

令和2（2020）年度 住まいとコミュニティづくり活動助成 活動中間報告

団体名

特定非営利活動法人チュラキューブ

活動のテーマ

築45年を迎える大規模住宅と大規模小売店舗を拠点にした障害者による「みんなの食堂」で高齢者の孤食防止と地域交流を図る活動

9月までに達成できた事項(箇条書き)

- ・4月～5月上旬までは緊急事態宣言の影響で地域食堂の運営は休止
- ・5月～6月中旬までは、学校の休校ということもあり、週に3回（火曜・木曜・土曜）に配食を実施。食事づくり・地域のネットワークづくり・感染防止を気を付け、一日20～25食ペースで配食
- ・5月中旬以降は、平野宮町みんな食堂を当初予定の「障がい者スタッフによる高齢者支援」から「コロナの影響での困窮を抱える高齢者・子ども支援」拠点へとテーマを変更。
- ・当団体とともに、生活困窮者の支援団体、児童保護施設等の退所者の中間支援団体、イズミヤ平野店・地域商店街・地域の大学のつながりを活かし、長期的支援への連携づくりに取り組む。
- ・現在は、食堂を木曜日・土曜日の週2回の運営とし、それ以外の時間はフードドライブ（食材支援）、居場所・相談支援をボランティアとして取り組む体制を作っています。

今後の活動予定と令和3年3月末時点の達成予定事項

- ・コロナウィルスの再びの感染の可能性も高まっていますが、当初予定をしていなかった子どもたちや保護者を中心としたコミュニティが生まれつつある中で、クッキングやものづくりなどのワークショップを開催し、社会経験を醸成できるサポートをしていきます。
- ・高齢者と親子の多世代をつなぐ活動として、食堂運営とつながりを生み出すワークショップを開催。
- ・常磐会学園大学や桃山学院大学などの地域の福祉学部を持つ大学からのボランティアも増えているなかで、学生主導のイベント企画も実現
- ・関わるスタッフへの福祉的サポートに関する研修の実施
- ・働く障がい者スタッフの食堂での立ち居振る舞いに関する研修の実施

新型コロナ感染拡大の影響で、やむを得ず生じた変更事項がございましたらその内容をお書きください。お書きいただいた事項の取り扱いにつきましては、今後、個別に検討させていただきますので宜しくお願い致します。

当初は、杉本町みんな食堂と同じ考え方で「障がい者スタッフの働く訓練」と「孤食に悩む高齢者」をつなげる場づくりとして計画をしていたのですが、大阪市平野区（市内で一番高齢者が多く、子どもの数が多い町）の立地から、コロナウィルス感染拡大の影響を仕事や生活に受けた方からの困窮の声が届くようになってしまいました。もちろん、イズミヤ平野店が入居するメガロコープという45年前に建った大型マンションのコミュニティ支援という観点に変更はありませんが、さらにコロナ禍での親子の居場所支援というものが加わっています。

働く障がい者スタッフも緊急事態宣言時は在宅勤務に切り替えておりましたが、現在は住吉区杉本町と平野区の2つの拠点での食堂スタッフとして活躍をしています。



平野宮町みんな食堂

2020年4月～9月まで中間報告

団体名	特定非営利活動法人チュラキューブ
活動のテーマ	築45年を迎える大規模住宅と大規模小売店舗を拠点にした障害者による「みんなの食堂」で高齢者の孤食防止と地域交流を図る活動
助成対象活動に至った背景	<p>2020年からスタートするイズミヤ空き店舗での地域食堂を、多世代のサードプレイスとして広げたい</p> <p>1975年に建ったJR平野駅の「平野宮町地区」に立地するメガロコープは、1号棟 320戸、2号棟 384戸、3号棟 164戸、5号棟 140戸（合計1008戸）。築45年に近づくなかで高齢者の数が増えるだけでなく、独居の高齢者、老老介護の住居が増えてきています。さらに、当時は人口約5,000人が利用していたメガロコープの1階のショッピングモール「イズミヤ」も建設時から開業しているものの、利用者の平均年齢の上昇と顕著な人口減少により、空き店舗の増加だけでなく、耐震補強ができない、店舗として経営の維持が難しくなってくるなど、厳しい状況に直面しはじめています。大阪市内で一番、高齢者とこどもの数も多く、こども食堂の数も多い平野区。この場所で、NPO法人が運営する障がい者訓練施設と連携し、週に2回だけ、多世代のサードプレイスとなる「平野宮町みんな食堂」が2020年1月から運営します。</p> <p>地域をつなぐ「みんな食堂」を地域の架け橋として育てていきたい！</p> <p>2019年8月から地域ヒアリングをはじめ、12月までにイズミヤ・地域の商店会・地域のこども食堂のネットワークとの協力体制ができてきました。2020年は地域に開かれた「みんな食堂」へオープンしていくタイミングとなります。さらには、食堂に関わっている常磐会学園大学の学生ボランティアをコアメンバーとして、地域の孤食に悩む多世代の方々が集うサードプレイスに育てていきたいです。</p>

新型コロナウイルスの感染拡大の影響

2020年2月5日にイズミヤ平野店、地域のメガロ5番街商店会との連携により、「平野宮町みんな食堂」がスタート。当初は水・木・金の週3日を当初予定のとり、メガロコープ（45年前に建った1000部屋）の住民を対象としたランチ食堂として運営をしていました。緊急事態宣言を含め、3月中旬に食堂を休止。5月に再びスタートさせるまで、大阪市平野区という所得の低い高齢者・子どもが多い街の特性として、若い親子世代の生活困窮層からの応援要請が増え、急速、フードドライブの拠点整備、高齢者・親子に向けたコロナの食材支援の拠点として動き出すことになりました。

緊急事態宣言の期間中に寄せられた相談、そして緊急対応

【地域住民からの声】

- ・今月は何とかかなりそうだが、いつ食料が底をつくか分からない
- ・アルバイトをして生活しているが、大幅にシフトを減らされ、家賃を払うことが出来ない。
- ・親（義父母、祖父母含む）から虐待されている。助けて欲しい！
- ・自分のバイト代を親に取り上げられた（義父）親に性的な関係を求められ、断ったら殴られた
- ・今日でお米が無くなる。お金もなく、どうすればいいか分からない。
- ・もう（家に）何も無い。子供を殺して自分も死にたい（ひきこもりの子供を抱えている親）

【平野宮町みんな食堂としての対応】

地域食堂を担う我々の緊急対応としては、「平野宮町みんな食堂」を活動拠点として、

- ①地域ネットワークを活かした困窮家庭への配食支援
- ②地域食堂でのソーシャルディスタンスを踏まえたコミュニティづくり、
- ③フードドライブなどでの食材調達 だと考え、動き始めました。

地域ネットワークを活かした困窮家庭への配食支援

5月から現在も、平野区内の困窮過程に向けてのお弁当配食支援を実施しています。食材は杉本町みんな食堂と分担をしながらも、フードドライブ拠点として食材の寄付なども集まるようになってきました。小学校の休校中は、学校給食が無くなってしまいますので、そもそも貧困の中にいる家庭の子どもにとっては、唯一の栄養補給とも言える食事の機会が失われてしまいます。そこで、お弁当配食をはじめ、コロナで「子どもが家にいて、働きに行けない」「非正規なので、コロナ自粛で仕事量が減った」「そもそも仕事がなくなった」など、トラブルに直面している若い世代の家庭への支援を中心に活動を進めてまいりました。

当初は30~50食を作っていましたが、現在は、学校が始まり、給食なども確保できていることから、10~20食に留まっています。



地域食堂でのソーシャルディスタンスを踏まえたコミュニティづくり

当初予定していたメガロコープに居住する高齢者住民はもちろん、生活困窮に直面する親子を支えるための地域食堂として、現在、木曜日の午後・土曜日の午後と夕方に食堂をオープン。親が働きに出ている家庭の子どもは特に、居場所の1つとして食堂に集まり、特に土曜日は常に賑わいを見せています。

また、平日は地域高齢者も集まり、生活の悩みを聞いたり、逆に新しいボランティアとして手伝ってくださったり、地域ならではの新しいつながりが生まれています。



地域連携

◆常磐会学園大学との連携

福祉を学ぶ学部を持つ常磐会学園大学の学生たちと連携をするべく、大学でのワークショップを実施。その後は継続的に食堂のボランティアスタッフとして参加してくれることに。

◆フードドライブ拠点として、食材をご寄付いただく

イズミヤ平野店を平野区内の地域食堂のフードドライブ（食材配達）拠点として稼働させるべく、社会福祉協議会や地域企業から食材をご寄付いただく機会も増えました。



今後の予定

- ・コロナウィルスの再びの感染の可能性も高まっていますが、当初予定をしていなかった子どもたちや保護者を中心としたコミュニティが生まれつつある中で、クッキングやものづくりなどのワークショップを開催し、社会経験を醸成できるサポートをしていきます。
- ・高齢者と親子の多世代をつなぐ活動として、食堂運営とつながりを生み出すワークショップを開催。
- ・常磐会学園大学や桃山学院大学などの地域の福祉学部を持つ大学からのボランティアも増えているなかで、学生主導のイベント企画も実現
- ・関わるスタッフへの福祉的サポートに関する研修の実施
- ・働く障がい者スタッフの食堂での立ち居振る舞いに関する研修の実施